

集落における空間構成上の特性

－沿海集落における高密度住を支える空間構造－

日大生産工（院） ○山本健司 日大生産工（研） 尾川陽一
日大生産工 宮崎隆昌

1.はじめに

沿岸域には約3000の漁港および約5000の集落が存在する。多くの沿海集落は、漁港周辺に漁港施設・公共施設・住居が集積する高密度住空間である。個々の生活者は高密度な居住空間においても漁業生産活動およびその生活空間を通じて、個と集団との関係に適正な「距離感覚」を有している。これらのスペーシングによって、個我生活を確保し、かつ家族生活を維持しつつ、近隣社会との共同的生活を持続している。

山本・宮崎（2004）は、離島集落（答志・和具・桃取・菅島）を対象に集落の空間構造・地域特性および営む漁業形態の差異等と「距離感覚」の関係性を検討している¹⁾。そして、以下の2つの概念を設定し、分析を進めている。

a) 常態位置：住居内部空間での日常生活において、利用する頻度が高く、使用・滞在時間が長い個人の特定の位置

・「D」(Docking position)：家族集合空間（常居）での団欒・食事等を行う世帯主の常態位置

・「H」(Housekeeping position)：家事・作業空間（カッテ）での家事や漁具の手入れ等の生産作業を行う主婦の常態位置

・「N」(Neighborhood position)：外部環境との接点である近隣交流空間（オモテ）での近所の常態位置

b) 常態間距離：常態位置同士の物理的空間距離

既往研究の結果、①離島集落での常態位置は、漁業生産の占める割合が高いほど屋外空間に近接する傾向がある②離島集落での常態間距離は、漁業生産の占める割合が高い集落ほど家族同士よりも近所の方が短く、その割合が低いほど家族同士の方が近所よりも短くなる傾向があること等を明らかにしている。

本研究は、既往研究で得られた離島集落での距

離感覚と空間構造の関係性が沿海集落において一般的であるのか、あるいは個別的であるのかを検討することにより、今後の沿海集落での高密度住を支える仕組みを探索しようとしている。

2.研究対象集落の概要

本研究では、既往研究での研究対象地と比較的類似した環境である三重県度会郡の南島町阿曾浦集落と南勢町相賀浦集落の2つの集落を研究対象地としている（Fig.1-1・Fig.1-2）。

両集落とも四方を海または山・崖等に囲まれており、他の地域からの孤立性が高い。阿曾浦は山・崖により集落空間が2つに分断されており、その分岐点に漁協や公共施設などの中核的施設が存在する。相賀浦の地形的・空間的構造は菅島と類似しており、磯・浜に漁協・店舗・公共施設などの中核的施設が存在する。

両集落の漁業形態や集落空間の構成などの概要を Tab.1 にまとめる。



Fig.1-1 阿曾浦



Fig.1-2 相賀浦

Tab.1 研究対象集落の概要

	答志	和具	桃取	菅島	阿曾浦	相賀浦
集落内の全世帯数	356世帯	153世帯	261世帯	215世帯	500世帯	325世帯
調査世帯数	70世帯	42世帯	51世帯	47世帯	54世帯	34世帯
有効世帯数	68世帯	41世帯	46世帯	39世帯	53世帯	32世帯
全世帯数に対する有効世帯数の割合	19.1%	26.8%	17.6%	18.1%	10.6%	9.2%
人口	1500人	601人	995人	848人	1314人	937人
漁業形態	純漁村	主漁従農村	半農半漁村	純漁村	純漁村	半農半漁村
漁人漁獲量	4,725t	1,261t	2,772t	1,514t	1,057t	689t
漁地陸揚量	3,823t	1,690t	2,772t	1,597t	1,028t	214t
漁港種別	第2種	第1種	第2種	第2種	第2種	第2種

※平成12年国勢調査、平成14年港勢調査

The characteristics of spatial composition in the villages

－The spatial structure support to dense population in coastal villages－

Kenji YAMAMOTO, Youichi OGAWA and Takamasa MIYAZAKI

3.常態位置と住居の平面構成・周辺環境条件

Fig.2 は住居内部空間と外部環境との接点であるオモテ（「N」）から住居内部をみた場合の常態位置（「D」「H」）の位置関係を、常態位置の配列に応じて分類したものである。これをもとに、両集落の常態位置の型別占有率を算出した（Fig.3）。

阿曾浦・相賀浦では、離島集落では少数である C TYPE・D TYPEが多く存在する。それに対して、離島集落において主要な型である A TYPE・B TYPEは阿曾浦・相賀浦では少数である。これは両集落の住居の平面構成との関連が考えられる。Fig.4-1・Fig.4-2 は阿曾浦・相賀浦の代表的な住居平面図である。離島集落では家事・作業空間の中心となる水廻りがオモテ側に位置して路地空間に面することが多い。そのため、「H」もまた外部空間に近接することが多く、「D」は「H」と近接するとともに外部の状況を容易に視認できる場所に位置することが多い。

一方、阿曾浦・相賀浦では家事・作業空間である水廻りは出入口から住居内部をみて奥側に位置することが多い（Fig.4-1・Fig.4-2）。それに関連して、「H」もまた住居奥側に位置している。

阿曾浦では「D」はオモテ側に位置することが

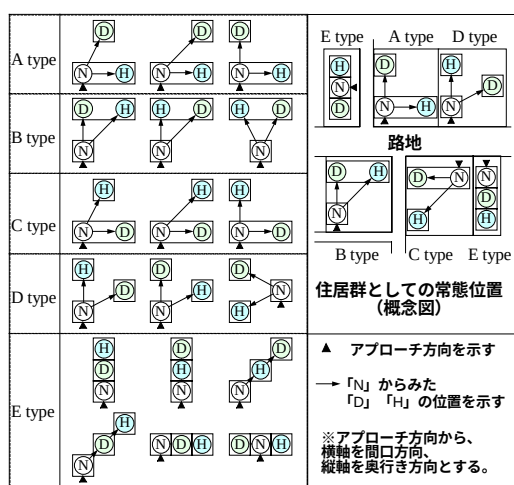


Fig.2 常態位置の型

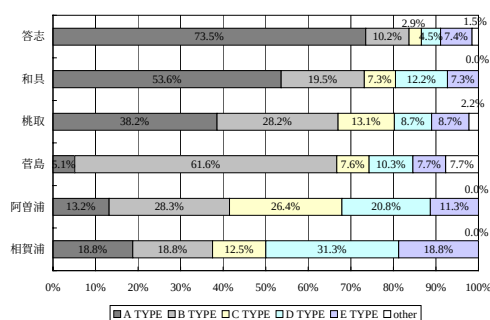


Fig.3 常態位置の型別の占有率

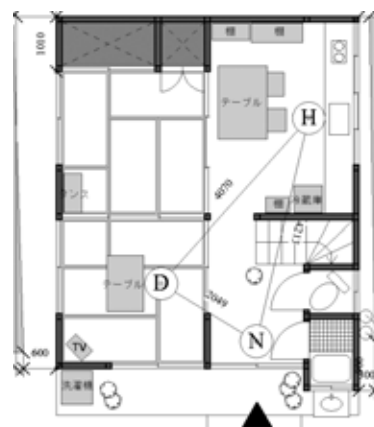


Fig.4-1 阿曾浦 SN36 (C TYPE)



Fig.4-2 相賀浦 SN6 (D TYPE)



Fig.5-1 阿曾浦常態位置地図



Fig.5-2 相賀浦常態位置地図

多く、屋外空間での様子を容易に把握することができる。相賀浦での「D」は「H」との結びつきが強く、近接することが多い。

Fig.5-1・Fig.5-2 は常態位置の型を総体的に把握したものである。両集落とも近隣の住居同士で同様の常態位置の型となることが多く、連带的に結びついて集住単位を形成している。

4.個々の生活者が持つ集団との「距離感覚」

4.1「常態間距離」の算出

Fig.6 は集落ごとの常態間距離の平均値を算出した結果である。既往研究において、離島集落での常態間距離は、漁業生産の占める割合が高い集落ほど家族同士より近所との方が短く、その割合が低い集落ほど家族同士の方が近所より短い傾向がみられることを把握した(住居内部空間での「D」「H」は漁業生産の占める割合が高い集落ほど屋外空間に近接している)。

阿曾浦・相賀浦での常態間距離の平均値は、D-N 距離・D-H 距離はほぼ同等の距離であり、いずれも H-N 距離よりも短い。これにより、世帯主の常態位置は家族同士の結びつきを維持しながら、近所とも同等の距離感覚を保とうとしていると考えられる。

4.2「常態間距離」の評価

エドワード・ホール(1966)は「Proxemics」という概念を提唱し、様々な場面で個人が他者と接するときに使用する距離は4種類あり、それぞれに潜在する特性が異なることを見出した。

4 種類の距離とは密接距離(0-45cm)・個体距離(45cm-1.2m)・社会距離(1.2-3.6m)・公衆距離(3.6m

以上)であり、人はこれらの物理的空間距離を潜在的に使い分けることで、他者との距離感覚を調整することを見出した。以上の内容を踏まえ、常態間距離に潜在する特性を評価することにより、個と集団の距離感覚を検証する。

Fig.7 は集落ごとに各住居での生活者同士の常態間距離をエドワード・ホールが提唱する距離別に、該当する住居数を集計したものである。離島集落では、答志では D-N 距離・H-N 距離が社会距離・遠方相(2.1-3.6m)が最も多いのに対して、他の3集落では D-N 距離・H-N 距離・D-H 距離ともに公衆距離・近接相(3.6-7.5m)が最も多い。

一方、阿曾浦(純漁村)の距離感覚は答志(純漁村)の距離感覚と類似している。さらに、D-N 距離・D-H 距離においては他の5集落ではみられなかった個体距離・遠方相(75cm-1.2m)が存在し、非常に短い物理的空間距離を保っている。これは阿曾浦の漁業形態は答志と同様に純漁村であり、世帯主は漁船漁業を行うため常に近所や仕

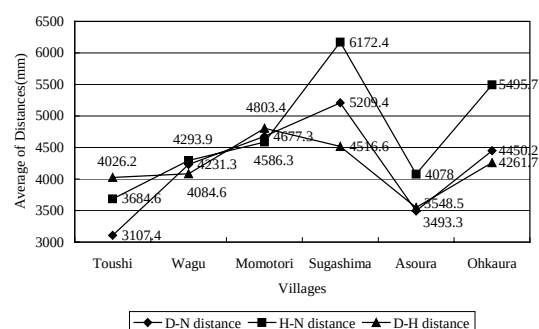


Fig.6 常態間距離の平均値

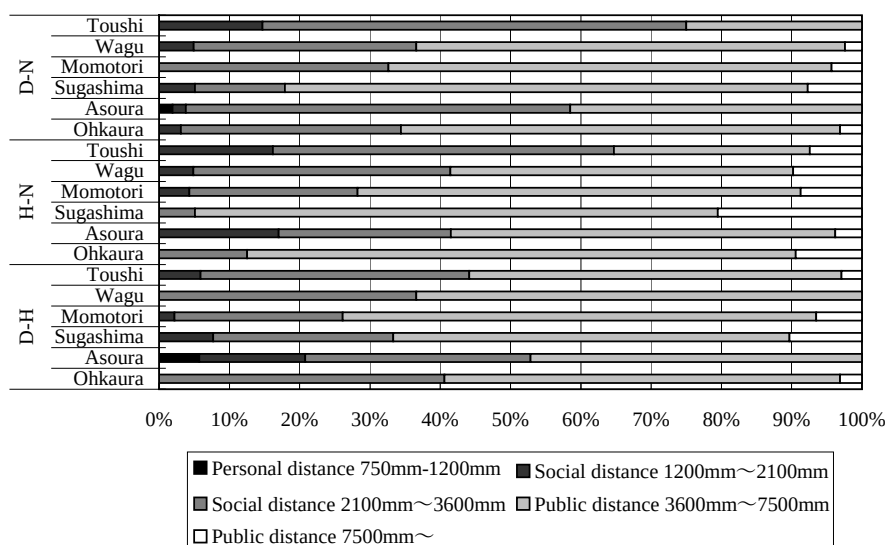


Fig.7 エドワード・ホールが提唱する4つの距離別の占有率

事仲間との連携が必要であるためと考えられる。

相賀浦の漁業形態は半農半漁村であるため、家族同士の距離（D-H 距離）と世帯主と近所の距離（D-N 距離）はほぼ同等の物理的空間距離を保つことで、共同的生活を持続している。

以上より、離島集落での結果と同様に、漁業生産の占める割合が高い集落ほど常態間距離は短く、住居内部空間での常態位置「D」は屋外空間に近接する傾向がある。

5.総括

本研究では、離島集落とは異なる地理・地形条件・空間構成である沿海集落を対象に、個と集団の「距離感覚」と空間的特性の関係性について検討をした。以下に得られた知見をまとめる。

I：阿曾浦・相賀浦における常態位置の型は、離島集落では少数である C TYPE・D TYPE が多く存在し、逆に離島集落において主要な型である A TYPE・B TYPE は少数である。

II：常態位置の型を総体的に把握した結果、両集落とも近隣の住居同士で同様の常態位置の型となることが多い。

III：阿曾浦・相賀浦においては D-N 距離・D-H 距離はほぼ同等の距離であり、世帯主は家族生活を確保しながら近所との共同的生活を持続している。

IV：阿曾浦・相賀浦の常態間距離は、離島集落と同様に、漁業生産の占める割合が高い集落ほど常態間距離は短く、特に住居内部空間での常態位置「D」は屋外空間に近接する傾向がある。

離島集落では磯・浜を中心に漁港施設・公共施設・店舗等が集約して複合化し、漁業生産および近隣交流の場として非常に大きな役割・機能を担っている。さらに集落の漁業形態に応じて、個と集団の距離感覚としての常態間距離に差異が生じている。それに対して、阿曾浦は地形的要素により集落が2つに分断されており、その分岐点に漁港施設・店舗等が存在する。四方を磯・浜に囲まれる地形条件により、近隣交流の場として機能する場が多く存在するために距離感覚は短くなっている。一方、相賀浦は比較的離島に類似した地形条件となっているが、海上交通以外の手段で他の集落とも集落間交流が可能である。そのため、離島集落に比べて磯・浜の持つ中枢的機能が薄れ、陸上交通での移動可能な範囲にその機能を依存している。半農半漁的性格も付与して、常態間距離も若干長くなっていると考えられる。

謝辞

本論文を作成するにあたり、小柳涼君・赤塚麻由子さん・五十嵐彩子さん・稲葉遙さん・関根英貴君・吉井淳君・吉川奈緒美さん・阿曾浦・相賀浦の住民の皆様にご協力を頂きました。尚、文部科学省・日本大学より平成13～15年度私立大学等経常費補助金特別補助・大学院重点特別経費・研究科分・学生分の助成を受けた事を感謝します。

文献

- 1) 山本健司、宮崎隆昌：離島集落における空間構成上の特性と個と集団の「距離感覚」の関係性,日本建築学会計画系論文集,第583号,pp.9-16,2004.9
- 2) 山本健司、宮崎隆昌：離島集落の各住居における収納と住居間距離の関係について-高密度集住空間の各住居同士の「間合い」-,日本建築学会技術報告集,第18号,pp.257-262,2003.12
- 3) 宗正敏、宮崎隆昌：沿岸漁村地域に於ける集落の構成と特性（志摩・熊野灘沿岸地域の整備計画に関する調査・研究その1）,日本建築学会論文報告集,第270号,pp.117-125,1978.8
- 4) 宗正敏、宮崎隆昌：沿岸漁村地域に於ける複合集落の類型的性格について（志摩・熊野灘沿岸地域の整備計画に関する調査研究・その2）,日本建築学会論文報告集,第271号,pp.95-103,1978.9
- 5) 大内宏友、宮崎隆昌、宗正敏：漁協を中心にとらえた漁港と集落の圏域の構成に関する実証的研究-沿岸漁村地域における圏域の構成その1-,日本建築学会計画系論文報告集,第369号,pp.72-81,1986.11
- 6) 大内宏友、宮崎隆昌、宗正敏：漁協を中心にとらえた圏域の特性とその変容に関する実証的研究-沿岸漁村地域における圏域の構成その2-,日本建築学会計画系論文報告集,第382号,pp.77-86,1987.12
- 7) 地井昭夫：漁業集落の研究とその方法についての考察（漁村計画の方法に関する基礎的研究・その1）,日本建築学会論文報告集,第237号,pp.135-145,1975.11
- 8) 地井昭夫：漁業集落の構造度・構造型と構造類型（漁村計画の方法に関する基礎的研究・その2）,日本建築学会論文報告集,第238号,pp.79-90,1975.12
- 9) 小泉正太郎、三国政勝：漁業地区における住居及び近隣の空間形成に関する研究-その1 千葉県勝山漁業集落の調査を通して-,日本建築学会論文報告集,第312号,pp.123-132,1982.2
- 10) 仙田満、金城むつみ、尾関昭之介：建築の個体距離に関する研究-住宅のデザインコードと外部空間計画,日本建築学会計画系論文報告集,第423号,pp.41-48,1991.5
- 11) 仙田満、矢田努、尾関昭之介：住み手の意識からみた建築の個体距離-建築の個体距離に関する研究（その2）,日本建築学会計画系論文報告集,第435号,pp.33-40,1992.5
- 12) 古賀紀江、高橋鷹志：一人暮らしの高齢者の常座をめぐる考察-高齢者の住居における居場所に関する研究その1,日本建築学会計画系論文集,第494号,pp.97-104,1997.4
- 13) エドワード・ホール：かくれた次元,日高敏隆・佐藤信行訳,みすず書房,1970
- 14) 金栄爽、高橋鷹志：密集住宅地の「住戸群」における路地と隙間の役割に関する研究,日本建築学会計画系論文集,第469号,pp.87-96,1995.3